

わくわく園庭作りプロジェクト

～推進委員会だより～ 令和5年度12月号

わくわく園庭作りプロジェクトとは

園庭を「心や体がわくわく・ドキドキして思わず関わりたくなる場」にするために、5歳児が中心にアイデアを出し、子どもと職員が一緒につくっていくプロジェクトです。令和4年度から取り組みを開始しました。

メンバー紹介

(敬称略)

自然環境の充実			遊びの充実	
池作り	植栽	虫の呼び込み	ごっこ遊び	運動遊び
園長	澁澤	澤田	古跡 乳児部 荒木美 / 長時間 坂井	
飼育栽培係 内藤				

【池作りの取り組み】

<令和4年度の取り組み>
令和4年度は、土を掘り進めて池の整形まで行いました。

②わくわく園庭づくりプロジェクト(令和4年度)

新しい池を作ろう！

わ～、幼虫だ！！

メダカいないね



ここ、硬いね～

<今年度の取り組み> ふあいと2組だより【11月号より】

園庭にできた池で生き物を飼いたい!ということで、話し合ってきました。夏になったらボウフラを食べてくれるようにメダカを飼おうと決めた子どもたち。より親しみや愛着をもてるように、自分たちで買いに行くことを計画しました。市ヶ谷のフィッシュセンターまで長距離を頑張って歩き、様々な魚を見たり、自分たちが飼うメダカを店員さんがすくっているところを見たりしました。それから、好きな遊びの時間などにメダカを見に行き、「みんな元気かな?」「なんだか、数が減っている気がする!」など気付いたことを知らせてくれます。池に放したら終わりではなく、関心をもって

いる姿が嬉しいですね。
実は、本当に数が減っているのです。流れ出てしまっている様子はないので、野生動物に狙われたのでしょうか。どうしたらメダカを守れるかも、子どもたちと相談しているところです。



飼いに行く前日には、池にきれいな水を入れ、カルキ抜きをしました。入れた時は泥が巻き上がって水が濁ったことに驚いていましたが、翌日、きれいになっていてホッとしたようでした。



フィッシュセンターの水槽に釘付け。友達と「見て見て!」と言い合いながら一緒に見ることを楽しんでいます。



1匹ずつそっと池に放しました。すぐに隠れるメダカを一生懸命に目追いつながり「かわいいね～」と話していました。

わくわく園庭づくりプロジェクト ～メダカ編～

＜今年度の取り組み＞ ふあいとⅠ組だより【Ⅰ月号より】

昨年から取り組んできた池作りを引き継ぎ、いよいよ生き物を飼うところまで進みました。何を飼いたいのか意見を聞くと、タイやマグロ、サメ、メダカ、コイなど知っている魚がたくさん出ました。ある子が、「サメがいたら小さい子が危ないよ」と言うと、みんながうなずきました。しばらくすると、「海と池に住んでいる魚は違う！」ということに気付き、海水魚と淡水魚の仕分けが始まりました。淡水魚の中から園で飼育できそうなものは何かフィッシュセンターの方に聞き、メダカを飼うことに決めました。そこからさらにメダカについて調べると、たくさん種類がいることや水草も必要だと分かりました。そのような話し合いの後、市ヶ谷のフィッシュセンターまで徒歩で行き、無事にメダカと水草を購入しました。自分たちが考えたことが実現した喜びを感じ、その思いを他学年にも知らせたい気持ちになる子どもも多く見られました。この経験を、次のプロジェクトにつなげていきたいなと思います。

黒メダカが20匹！



水慣れしたら、いよいよ池の中へ！
ようこそ！メダカちゃん♪



【植栽の取り組み】

＜今年度の取り組み＞

園庭の固定遊具横の花壇に、遊びに使える草花を育てています。春～夏の時期は、ニチニチソウ、サルビア、ハーブ（ミント・バジル・シソなど）がジュースの材料で活躍しました。初秋には、コスモスも植えました。季節の花が咲く花壇にしたいと11月からビオラを植えました。花が咲くとすぐ摘まれてしまうので色合いの寂しい花壇になっています。寒さに強く、春咲きのスイセン、ハボタン、ラナンキュラスなども育てていこうと考えています。キーウィの2本の苗も、順調に育ち、60cm程になっています。

職員の皆様をお願い
ドングリや球根をテラスに置いておくとネズミが食べにやってきます。保育後にはドングリは必ず蓋つきの缶に入れてください。球根もテラスに出したままは止めてください。

【虫の呼び込みの取り組み】

＜今年度の取り組み＞

虫が好きで詳しい幼児が何名かいる今年度のふあいと組。学年全体としても小さな生き物に関心をもっている姿がありました。Ⅰ学期に園庭マップを見ながらどんな園庭にしたいのかを出し合った時に「もっと虫を呼びたい」という声があがっていたので、グループごとにどうやったら虫を呼び込めるかを考え、できるところから実践してみました。知っている知識を出し合いながら、「カブトムシに来てほしいから拾ってきたクヌギのドングリを植えようよ」など次々にいろいろな案を出す子どもたち。中には、「チョウもカマキリも呼びたいけど、カマキリはチョウを食べるから…。どうしたらいいんだろう？」と考え込む姿もありました。生態系を考えていく一歩にもなっているようです。



Aさんは、トンボを呼びたいと言って、園庭の花壇に棒を立てました。それから数日、園庭で遊んでいたAさんが走って保育室に戻ってきました。「先生！棒にトンボがたよ！もう飛んでいっちゃったけど、いたんだ！」と目をキラキラさせていました。自分が考えたことがうまくいったことがとっても嬉しい経験になったようです。もちろん、やってみてうまくいかないこともあります。それでも、子どもたちは“考えて”“やってみる”ことが楽しいようです。これからは虫が少なくなる時期ではありますが、来年度にも引き継いでいけるようにわんぱく組に伝えていきます！



＜今後に向けての計画＞

5歳児を中心に、園庭のどの辺でどのような虫を見つけたことがあるかを表す「園庭虫マップ」を作成する。作成する中で、子どもたちが虫の食性や暮らす季節等に気付くのではないかと予想しています。

【ごっこ遊びの取り組み】

令和4年度は、保護者の方の力を借りて、ログハウスの向きを、砂場の方を向けて、遊びがつながるようにしました。

②わくわく園庭づくりプロジェクト（令和4年度）

12月3日（土）の保育参加の時に、保護者の力を借りてログハウスの移動



<今年度の取り組み>

昨年度ログハウスの向きが変わり、砂場からの動線が変わりこども達もログハウスを使ってお家ごっこや秘密基地ごっこを楽しむ姿が見られるようになってきました。

今年度は、お家ごっこやおままごとなどが充実するように、職員のご協力していただき、本物のフライパンやお鍋を用意したり、おたまなどの調理器具をコーナーの中に用意したりしました。そのことで、より本物らしくなった調理器具や IH コンロなどを印刷した物を使ってイメージを広げながらごっこ遊びをする姿が増えてきました。今後は、より自分たちの場づくりができるようにマルチパネルなどを使って場づくりも楽しめるようにしていきたいと思います。

<今後に向けての計画>

- ① ごっこ遊びに使える鍋や調理器具等の収納場所が子どもも職員も分かるように、個々の鍋や調理器具についても、全体も分かるように写真表示をする予定です。
- ② 園庭でごっこ遊びの場をつくるものとして、マルチパネルを環境に出します。このマルチパネルの組み立ては、5歳児のみが行えることとします。5歳児が作った場に興味をもって、他学年の子どもが入って遊ぶときは、保育者同士で声を掛け合って留意し合います。（マルチパネルは高さや厚みがあるので、つまずいたり転んだりすることに注意し合いたいと考えます。）

【新設！ 運動遊びの取り組み】

<今後に向けての計画>

12月の推進委員会の中で話題になり、今後取り組んでいこう！ということになりました。

まずは、フープがたくさん出ているので整理すること、以前購入したはずのキャンディーボールを探して園庭で使えるように出すこと、について話し合いました。

また、子どもたちの遊びの興味やこんな動きを意図的に取り入れたい、という両面から、環境に出そうと話し合いました。そのため、動きを引き出す遊具を、適宜園庭倉庫を活用して入れ替えてきるとよいのでは？ということも話し合いました。

*****職員の皆様へアンケート依頼*****

園庭での「運動遊び」、「ごっこ遊び」の環境について、「こんなふうになるといいな！」「こんなものがあるとよい！」というアイデアを募集します。12月28日（木）20時締切です。わくわくする園庭づくりには是非ご参加ください。たくさんのご応募お待ちしております！！

アンケートの募集は終了しました

例 「運動遊び」…雲梯にのぼってみたい、バナナの木に見立てて実や葉をつけたらどうか
スクーターなどの乗り物を増やしたい 等
「ごっこ遊び」…持ち運びできるテーブルやいすなどがあるとよい
テントなども出してみてもいい 等